

【令和6年度】とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1169
施設名	渋谷東ちとせ保育園
施設所在地	東京都渋谷区東4丁目7-8
法人名	社会福祉法人ちとせ交友会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「食育」

日頃から身近で大事な「食」に注目し、子どもたちが苦手意識を持っている野菜を主役にした「食育」をテーマとして設定した。

<テーマの設定理由>

五感が発達している未就学の時期に「食」に関する知識をつけ、農業が持つ教育的な価値に目を向けて、様々な体験を得てもらいたい。

土や野菜に触れた時の感覚や香り、生き物、植物など、例えば「どうしてきゅうりを切ったら水が出て冷たいのか？」など、食べているだけでは気付けない野菜の不思議、自然のパワーを問いとして設定することで、「こんなの初めて見た」と「もっと知りたい（触りたい）」という子ども達の知的好奇心を育みたいと考えたため。

「たべる」だけでなく「つくる」のところまで繋げてあげたい。

2. 活動スケジュール

令和7年1月：食育授業

令和7年2月：食育授業

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・専門の外部講師を呼んで園内で開催できるように野菜の購入、備品の購入
- ・予め子ども達に食育内容のリハーサル実施

4. 探究活動の実践

＜活動の内容＞

本物の野菜を切る、ちぎる、折るなどして、五感を通じてその音や食感、外側の皮と中の部分の違いなどを知るなどの楽しく学べるようにクイズの要素を取り入れて実践した。

外部講師が実施することで、子ども達にもいつもとは違う新鮮な情報が入っていくようで、いつもよりも聞く姿勢が出来ている子どももいた。

なかなか調理前にじっくり野菜に触る時間が取れていることはなく、子ども向けに野菜のパワーを説明してくれることで、子ども達も最後まで飽きずに五感を活用して参加できていた。

野菜はかぶや大根といったメジャーな野菜に加え、ラディッシュなど子どもがあまり目にしない野菜も持参した。

野菜も1回目小松菜2回目ほうれん草、大根とラディッシュを今回紅芯大根のようにして、前回と関連するけど違う種類の野菜を持参した。

前回の大根は時間なく見るだけで終わってしまったので、丸々1本余っていたのを利用して1ヶ月外に干したものを持参。すると水分が抜けてブヨブヨの感触に。

野菜の中には水分が入っていることを前回発見した子供達に、その水分がなくなるとこうなると示せて、また子供達も触ったことのない感触だったようで興味津々だった。

「わざと水分飛ばして作るのがたくあんだよ」など、姿が変わることで食べ方も変わるものがあることを話すことができた。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

食育活動を繰り返し行うことで、子ども達の感情が「野菜も生きている」と捉えて、野菜の成長や大切さを身をもって体験している様子が伝わった。

例えば大根を触ってみた子どもは、「かわいい」「スイカみたいな匂いがする」などの子どもならではの感性でのコメントや疑問が次々と浮かび、子ども達の純粋な好奇心やワクワクしてる様子が感じられた。

「どんな匂いがするのかな？」など子ども同士で話して興味を持っていた。

保育者も一緒になって楽しんで参加することで、その時だけで終わるのではなく、今後の保育活動において保育園が伝えられるメッセージを考えるきっかけにもなった。

野菜クイズでは「大根は上と下でどちらが甘い？」など、大人も興味深く感じるような、不思議な知識を得ることで、驚きの声も出ていた。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

今までも食育活動で野菜に触れることはしたが、皮と内側の違いやにおいを感じることで終わっていた。

しかし、今回はよく観察できるような声掛けや働きかけがあり、皮をむく、種をとる、葉っぱに白い粉のようなものがついてる事に気づく等、今まで以上に観察し、気づきや発見をした。

終わった時には「また、やりたいね」という声が多く聞かれた。

また、2回目のカードゲームでは、冬の野菜等、職員にも学びになる内容だった。

子どものみならず、職員の興味も引き出してもらえたので、今後の食育活動にも、良い影響を与えてくれると思う。